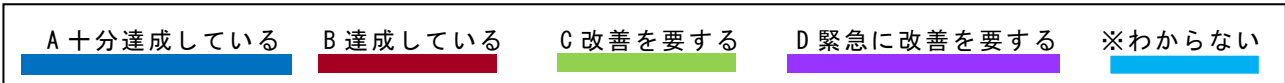


幼稚園名：中央区立月島幼稚園 所在地：中央区月島1-9-7
 園長名：太田 禎子
 幼児数：108名 学級数：5学級
 教員数：14名（幼稚園講師・養護教諭・特別支援補佐員含む） 職員数：2名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

○アンケート実施状況

- ▶実施時期 12月
- ▶教員5人中5人回答 回答率（100%）、保護者108人中108人回答（100%）

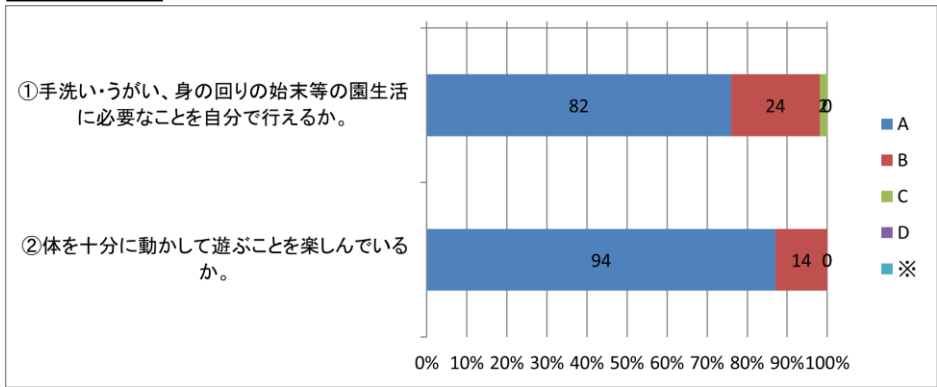


今年度設定した3つの重点目標において、9割以上の保護者から「達成されている」との回答を得た。今年度の教育活動について多くの保護者の方にご理解いただけたと考える。

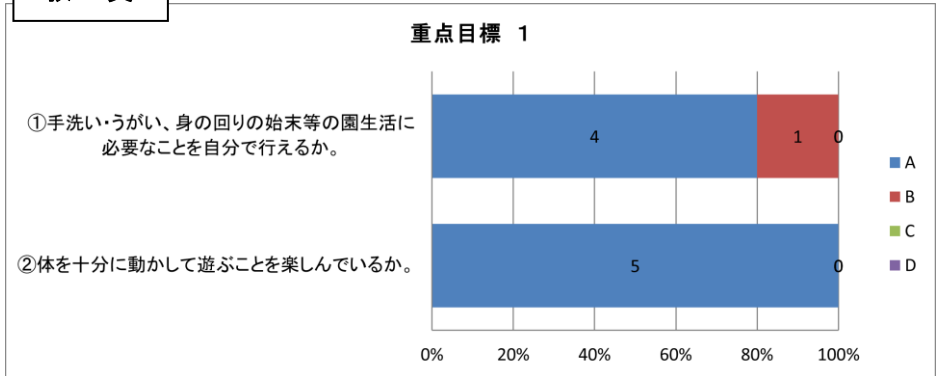
●重点目標1 幼児の健康な体づくりを推進する。

- 評価指標：①手洗い・うがい、身の回りの始末等の園生活に必要なことを自分で行えるか。
 ②体を十分に動かして遊ぶことを楽しんでいるか。

保護者



教員



【重点目標 1 について】

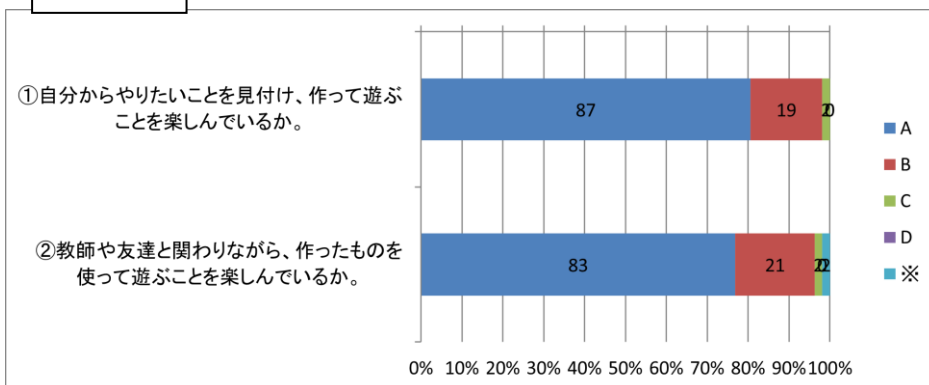
- 重点目標 1 について、保護者の「十分達成している」「達成している」の合計は 98% と高い評価である。新型コロナウイルス感染症予防にも十分配慮し、手洗い・うがいを意識して行ってきた。所持品の始末や身支度、排泄等については個人差もあるが、保護者との連携を図りながら丁寧に指導してきた。今後も、発達に応じて家庭と連携を取りながら生活習慣の自立を促していく。
- 評価指標②では、100%の保護者が「十分達成している」「達成している」と回答しており、とても高い評価である。運動遊び推進園として、園庭や遊戯室を活用し、思わず体を動かしたくなるような環境づくりを学年の発達に応じて工夫してきた。また、園庭開放を昨年よりも多く実施し、保護者や友達と一緒に園庭で体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるようにした。今後も、園庭開放を充実させながら、家庭への運動遊びの啓発も進めていきたい。

●重点目標 2 幼児が主体的に関わり表現する楽しさを味わうことを通して豊かな心を育む。

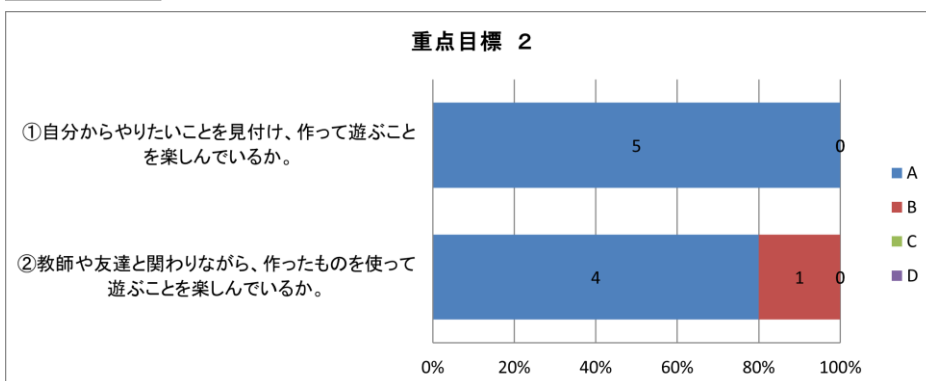
評価指標：①自分からやりたいことを見付け、作って遊ぶことを楽しんでいるか。

②教師や友達と関わりながら、作ったものを使って遊ぶことを楽しんでいるか。

保護者



教員



【重点目標 2 について】

- 評価指標①では、98%の保護者が「十分達成している」「達成している」と回答しており、教員も全員が「十分達成している」と回答しており高い評価である。今年度は「造形的な遊び」について園内研究で取り組み、幼児が素材そのものとの出会いや触れ合いを楽しめ

るような環境を工夫してきた。保護者にもその活動の様子を写真と共に保護者に伝えたり、作品を見ていただいたりした。今後、幼児が素材との触れ合いを楽しみながら表現することの意味や、一人一人の表現を受け止める教師や保護者の関わり方の大切さについて、保護者への理解を広げていきたい。

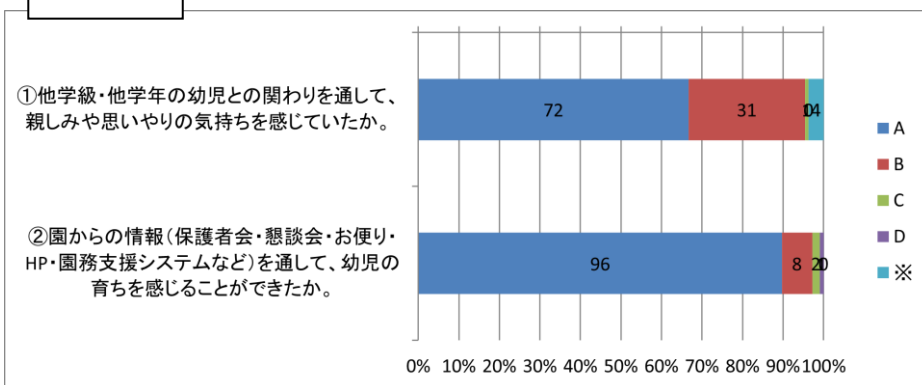
- ・評価指標②では、96%の保護者が「十分達成している」「達成している」と回答している。日々の遊びの中で、自分で材料を選び、作って楽しめるような環境の工夫と、作った物を使って遊べるような援助を工夫してきた。また、はさみやのり、絵の具、ホチキスなど、経験内容を学年間で相談しながら計画的に行ってきた。作ることを好む幼児が多いが、個人差もあるので、一人一人の取り組みの様子をしっかりと把握していく必要がある。また、製作棚に置く材料の種類や置き方など、さらに改善してけるとよい。

●重点目標3 家庭や地域と『月島幼稚園大好き!』の気持ちを共有する。

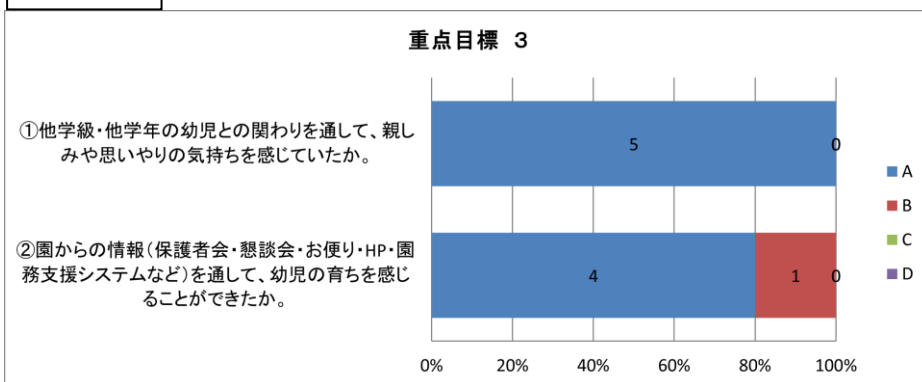
評価指標：①他学級・他学年の幼児との関わりを通して親しみや思いやりの気持ちを感じていたか。

②園からの情報(保護者会・懇談会・お便り・HP・園務支援システムなど)を通して、園児の育ちを感じることができたか。

保護者



教員



【重点目標3について】

- ・評価指標①では、95%の保護者が「十分達成している」「達成している」と回答しており、教員も全員が「十分達成している」と回答している。コロナ禍において、外部との交流が難しい分、園内での異年齢の関わりを意識してきた。入園当初に年長組が年少組の手伝いをしたり、行事に向けての取り組みを互いに見合うことで刺激を受けられるようにしたり

した。また、日常的な場面の中で異年齢が関わる機会を大切にしながら、憧れや親しみの気持ち、思いやりなど心情面を育ててきた。他の項目に比べると A の割合が低いですが、心情面は評価が難しいので、日々の保育の中での具体的なエピソードを降園時などに保護者に伝えていけるようにしていきたい。今後も異年齢で関わる機会を充実させながら、親しみや思いやりの気持ちをもてるようにしていく。

- ・評価指標②では、96%の保護者が「十分達成している」「達成している」と回答している。今年度、新たに導入された園務支援システム「ルクミー」を活用し、各学級で遊びの様子を写真と共に毎日配信してきた。言葉では伝わりにくい遊びの様子を、写真を通して伝えられるようになったことで、教育活動への理解や園への安心感につながっている。来年度も継続して日々の配信を行い、家庭と情報を共有しながら、幼児の成長を共に喜び合えることを目指して取り組んでいきたい。

2 重点目標以外の自己評価と保護者による全方位的な評価における達成状況及び達成のための取組状況

(1) 教員の自己評価 結果と分析

- ・概ね達成していると回答しており、園の教育活動に「行事」、「特別支援教育」、「地域との連携」については課題が挙がった。
- ・行事について
幼児が主体的に参加できるように援助し、当日に至るまでの過程を大切に取組んできた。一人一人の存在を認め合い、困ったときには助け合えるような幼児同士の関わりの素地を育てていくことを再確認した。
- ・特別支援教育について
特別支援教育補佐員との連携を図るため、支援の必要な幼児についての情報共有を行っている。幼児の状況は日々変化するので、職員全員で幼児の対応について共通理解する機会を月1回もてるようにする。
- ・地域との連携
今年度、未就園児の会の内容を工夫してきたが、コロナ禍ということもあり保育を公開する機会をもつことは難しかった。来年度は、未就園児の会を月1～2回程度実施し、未就園児親子が園に遊びに来る機会を増やすと共に内容の充実を図っていきたい。また、未就園児の会を午前中にも行い、実際の保育の様子を見たり、遊びに参加できるようにしたりして、本園の特色を広く発信し、地域の親子が幼稚園に親しみをもてるようにする。

(2) 保護者評価結果と分析

- ・全方位的な評価については、全ての項目において、90%以上の保護者が、4「よくあてはまる」・3「あてはまる」と回答しており、この評価を得られたことは、幼稚園への理解と今後への期待の表れと捉える。特に、「生活習慣の定着」・「運動や自然環境づくり」・「感染予防」・「情報発信」の項目では昨年度よりも4「よくあてはまる」の評価の割合が増えていた。
- ・一方で、設問1「幼稚園に行くことを楽しみにしている」について、2「あまりあてはまらない」の回答が5%であった。幼稚園が楽しい場所であることが感じられるよう、保護者と密に連携を図りながら、一人一人の幼児に丁寧にかかわってきたい。

3 今後の改善方策

○安全管理を徹底する。

危機管理マニュアルを基にして、園内の安全な環境作りと体制を日々確認していく。
また、幼児の行動を予測し、職員全体で安全管理していく意識を高める。幼児が安全な遊び方や過ごし方を身に付けられるよう安全指導を行い、保護者にも発信していく。

○保育の質の向上に向けて、幼児の主体性を育む指導方法の見直しと改善を図る。

幼児の姿や遊びの読み取りによる環境の再構成、長期的な見通しと日々の丁寧な振り返りを通して、指導方法を見直し改善する。教員間での学び合いを通して保育の質の向上を目指す。

○造形的な遊びについての研究発表を行い、研究内容を充実させる。

造形的な遊びについての研究を深め、幼児が自分らしく表現する楽しさを味わえるような環境や援助を工夫する。取り組みの様子を保護者にも発信し、理解を広げる。また、中央区研究奨励園として、区内外に向けて研究発表会を行い、研究の成果やいただいた指導・助言を今後の教育活動に生かしていく。

○子育てのセンター的役割を担う。

未就園児親子向け施設開放「つきしまらんど」の回数・時間設定・内容の改善や、園庭開放の充実を図るなど、子育て支援の一助につなげる。本園の特色を広く発信し、地域のセンター的存在となるよう取り組んでいく。